

NO	分科会名	テーマ	分科会	分科会名	座長	助言者
A	施設でその人らしい暮らしを支える	<p>ホームの中での生活の工夫や、認知症個別ケアへの取り組み実践を持ち寄りまして。入居から看取りにわたるその人の人生を支えた実践や、最期まで食べる大切さを追求した実践事例をもっと学び合いたらいいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者が安心して生活できるための創意工夫の実践 ・認知症高齢者の尊厳を大切にしたいケアの取り組み ・高齢者の「その人の人らしい暮らし」を支える取り組み ・生活の延長にある看取りケアの実践 ・最期まで食べる事を大切にしたい取り組み実践 	A-1	<p>新型・ユニット型を中心とした（そのシステムと密接に関連した実践事例）</p>	宮城 十符・風の音 副施設長 丸田 礼子	島根 ひまわり園 施設長 常陸 実
			A-2	豊かな日常を支える	東京 白十字ホーム 生活相談員 柿沼 由希美	群馬 誠の園 施設長 山口 千春
			A-3	認知症の方のケア	群馬 エンジェルホーム 園長 若林 毅	愛知 前 蒲郡眺海園 施設長 早川 昌宏
			A-4	重度化した高齢者への対応（ターミナルの取り組み・健康管理を考える）	福島 はなしのぶ ケアワーカー長 山岸 正和	北海道 かりぶ・あつべつ 施設ケア科副科長 椎名 美樹
			A-5	食を支える	宮城 十符・風の音 施設長 小岩 真理子	福島 わたり病院 栄養科長 関場 治美
B	施設・在宅の食を支える	<p>ソフト食、クックチル・フリーズ食品等、利用者の重度化に伴い食の在り方、形態提供の仕方が多様になっています。各施設・事業所における食事の創意工夫の実践を持ち寄り学び合いたらいいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームケア、多職種協働による食生活の取り組み ・調理現場における個別対応実践 ・嚥下障害や食欲不振、認知症による摂取量低下等への栄養改善の取り組み ・栄養ケアマネジメントの取り組み実践 ・在宅における調理の工夫、サービス機関との連携・地域資源の活用 	B	食を支える（食に携わる専門職を中心として）	山形 とかみ共生苑 主任栄養士 岩原 道代 千葉 やわら木苑 管理栄養士 高原 由香	
C	施設・在宅の医療や健康管理を考える	<p>医療・健康管理をはじめとする医療専門職としての実践を持ち寄り学び合いたらいいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・在宅における医療の在り方と医療機関連携 ・医療ニーズへの対応と課題 ・皮膚ケアの充実 褥瘡予防 ・感染症予防対策 ・看取りケアの専門職としての実践 	C	医療・健康管理を考える（医療職を中心として）	北海道 フルーツ・シャトーよいち 医務課長 藤林 洋子	
D	在宅生活を支える施設での役割を考える	<p>在宅生活を支えるデイサービスやショートステイのあり方や役割、課題について議論し検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイならではの課題、難しさ、工夫した取り組み ・ショートステイの受け入れ、医療依存度の高い利用者の受け入れについて ・認知症高齢者のショートステイ ・緊急シヨート、虐待保護、多問題家族の対応支援 ・シヨート中の洗濯、荷物点検、服薬の管理について ・初回アセスメントとリスクの把握 ・在宅での医療処置の継続が必要な利用者への対応 ・ホームの社会的な役割、デイサービスとの連携した取り組みや課題 ・デイサービスの役割、認知症高齢者、虐待保護、他問題家族の対応支援 	D-1	ショートステイのとりくみを中心に	大阪 いのこの里 副施設長 吉川 幸志	
D-2	通所のとおりくみを中心に		D-2	通所のとおりくみを中心に	東京 白十字八国苑 施設長 吉田 裕	東京 上井草ふれあいの家 所長 藤山 邦子

NO	分科会名	テーマ	分代会	分代会名	座長	助言者
E	有料ホーム・ケアハウス・高専賃など多様な住まいの機能と役割	福祉施策の観点から、また国土交通省が住宅施策の観点からと多様な住まいが提供されてきています。ケア付き住宅、有料老人ホーム(住宅型、介護付き)、高専賃、高専賃などこれらが「老後の住まい」の保障になりうるのか、どうすれば安心の住まい「終の棲家」になり得るのか、実践例を持ち寄り現状と課題を把握していきましよう。 ・多様な住まいの機能と役割、運営の問題・課題 ・認知症ケア ・重度化の対応 ・医療ニーズへの対応	E	ケアハウス・有料老人ホームなど	愛知 すこやかのリ施設長 阿藤 広志	福岡 ケアハウスらいふ戸畑施設長 内田 義則
F	養護老人ホームの役割と課題	新制度移行後のいろいろな影響や課題、利用者への重度化の中での対応等について議論しましよう。 ・自治体への働きかけ、低所得者・社会適応困難高齢者の実態 ・養護老人ホームのあり方、事例交流 ・「外部利用型」の導入など制度転換への実態と対応 ・シニアステイの取り組み	F	養護老人ホーム	長野 ゆいの里 ※ 調整中	大阪 城東老人ホーム事務長 横山 道夫
G	地域で暮らし続ける	(訪問介護) 「住み慣れた家で、その人らしく最期まで」そんな在宅生活は『高嶺の花』…? 度重なる制度改定に、利用者・家族はもとより、事業所も大きく影響を受けています。来年度にせまる医療・介護報酬の同時改定。生活援助の保険はすしが狙われるなど情勢から目は離せません。在宅での看取り、同居の認知症の人を支える緊密なネットワークの構築も急務です。今こそ、訪問介護の重要性を再認識し、問題を共有していきましよう。 ・登録、パート、常勤だった、みんな同じプロ…雇用形態の悩み ・サービス提供責任者の主張…「やりがいはあるけれど、何とかしてよ! この現実」 ・生活援助の奥深さ…「その人らしさを支え、今日も明日も生活できる」を支える ・ヘルパーの抱う「医療行為」…研修制度、事故のリスクなど考えておきたい事 ・この家で最期まで…在宅での看取りの実践 (グループホーム) 地域密着型サービスとして、地域の中におけるグループホームのあり方や重度者や看取りの対応等ケアの質が問われています。グループホームならではのケアや課題を持ち寄り討議していきましよう。 ・グループホームでのケアのあり方、「看取り」「家庭復帰」などの実践 ・グループホームと地域の関わり、連携 (小規模多機能施設) 住み慣れた地域で暮らし続けるため「通い」「訪問」「泊まり」のサービスとして期待されましたが、介護報酬上の問題や小規模多機能としての役割など、メリットとともに多くの問題が浮かび上がってきています。取り組みや課題について多くの人に知ってもらい検討していきましよう。 (居宅介護支援・地域包括支援センター・特養相談部門) 高齢者は地域の中で暮らしていく中でたくさん抱えています。住み慣れた地で、安心して生活していきけるような地域づくり、コミュニティケアについて、また介護保険がありながらも在宅生活が困難な状況にある方への関わりなど、実践例や課題を持ち寄り議論していきましよう。 ・地域包括ケアの新たな役割の課題 一 地域づくりの取り組みについて 一 権利擁護について(虐待防止・早期発見・権利擁護の活動報告) 一 一 介護予防事業への取り組みについて(周知活動・対応チームについて・養護者の支援・行政との連携・成年後見制度) 一 ・認知症ケアへの取り組みについて ・事業所の運営とケアマネジャーの「質の向上」への取り組みについて ・多問題家族や一人暮らし、老老介護、認知介護など困難事例への取り組み ・在宅における看取りへの取り組み	G-1	ホームヘルプサービスを中心に	福島 ヘルパーステーションおおつき主任 阿部 純	茨城 ヘルパーステーションおんけやき所長 早瀬 努
G			G-2	グループホームケア	大阪 グループホームたんぽぽ 総主任 佐々木 政布	東京 グループホームみたてホーム長 寺田 慎
			G-3	小規模多機能施設	東京 小規模多機能サービスすこやかの冨業平 所長 長谷川 浩司	長崎 戸町ふくし村施設長 吉野 紀子
			G-4	地域づくり、コミュニティケア・在宅介護で困難(重度化等)な事例の対応	東京 白十字八国苑 生活相談員 酒井 瑞恵	福島 おおつき介護保険センター 所長 菊谷 朗

NO	分科会名	テーマ	分科会	分散会名	座長	助言者
H	安心・安全な生活を 送る	安心できる生活、安全が確保される生活とは。日常生活のなかにもさまざまなリスクは存在します。リスクへの対応をどのようにとらえるかで、生活の有り様が変わることがあります。事故予防の取り組みや体制づくり、職員への教育や学習活動について、人員配置や環境整備などの取り組みについて持ち寄り議論しましょう。 ・身体拘束防止の取り組みと課題 ・虐待防止の取り組み ・オンブズマンや第三者機関活動の実例 ・個人情報管理 ・その人らしさ、自由、プライバシーを守るケアの実践 ・事故防止の取り組みや体制、家族との連携・信頼づくり ・ヒヤリ・ハットを活かす ・発生した事故から学んだこと ・転倒防止の工夫 ・事故対策のマニュアルとその活かし方	H	安心・安全な生活	京都 原谷こぶしの里 部長 介山 篤	東京 社会福祉法人すこやか福祉会 理事長 中山 美千代
I	誇りと自信を持ち 働きがい、やりがいのある職場づくりを考える	自分自身が充実していないければ、他の誰かを援助することは難しくなることがあります。高齢者を介護する場合でも、職員が元気に取り組み取り組めることがその職場を盛り上げることになるでしょう。そのような職場づくりをどのように進めるか、取り組みの事例などを持ち寄り、課題や問題解決のヒントを考えましょう。仕事への誇り、取り組んでいる事への自信、働きがいのある、やりがいを持つ職場づくりについて話し合い、立てるようにしましょう。 ・新人職員の主張 ・中堅職員の悩み、役割と課題 ・自分の考えや意見を本音でぶつけあひ、職場の問題に取り組んだ事例 ・組織の活性化につながる取り組み ・職場のストレスマネジメントやメンタルヘルスについて ・管理職や上司に言いたいこと、望むこと ・研修制度や体制について、人材育成の工夫について、育成の悩みなど ・チームワークや協力・連携への課題など	I	職場づくり	東京 葛飾やすらぎの郷 生活援助課課長 福田 久美子	茨城 ケアハウスみと 施設長 神生 幸子
J	家族介護者を支える	介護保険は「介護の社会化」をうたっていますが、依然として家族介護に頼る実情があります。在宅介護と施設介護の費用や介護負担の違いなど課題は山積していることに加え、在宅介護者の4人に1人はうつ傾向がみられる、心身疲労を抱えているなどの報告もあります。利用者や介護者同士の支援等ネットワークの構築などに向けた取り組みと課題を持ち寄り、考えていきたいと思います。 ・家族会の現状と課題 ・家族とのケアパートナーシップ ・家族等愛護者への支援と課題 ・介護者のネットワークづくりの現状と課題	J	家族介護者を支える	石川 なんぶやすらぎホーム 施設長 坂口 朋美	東京 白十字ホーム 施設長 西岡 修
K	情報共有を 考える	職場内での情報共有が不十分な場合、事故やトラブルが発生したり、利用者への介護方法が統一されないなどの影響が出やすくなります。また、家族の思いや要望が伝わらずに意にそぐわない援助などを提供してしまうと、家族からの不信任を招くことにもなります。情報の共有方法、情報からの気づきとそれの伝達や検討について、工夫や課題を持ち寄り、学びあひましょう。 ・職員間での情報共有の取り組みと課題 ・事業所と家族との情報共有や連携について ・情報の活かし方について ・事業所間(事業所・自治体・包括等)の情報共有について	K	情報共有を 考える	北海道 フルーツ・シャトーよいち 次長 松井 忍	山形 とかみ共生苑 施設長 横山 雄治
L	福祉施設における 事務の役割を 考える	事業の多様化、制度改定、厳しい経営環境のなか、「実務の要」としての役割がますます重要になっていきます。また、行政や地域との関係づくりの上でもその能力を求められています。事務の役割についての議論を深めましょう。 ・福祉施設における事務部門の役割 ・事務・経理・総務業務の効率化、経営データの活用・提言 ・事務部門からみた介護保険制度の問題 ・施設の民主的運営の課題、各種委員会の事務局など運営への参加 ・全職員参加の経営、処遇改善へ向けたいとどりとくみなど	L	事務の役割を 考える	千葉 やわら木苑 施設長 伊藤 裕之	宮城 社会福祉法人宮城厚生福祉会 事務局長 海和 隆樹

※ 演題数・参加希望者数との関係で分科会の増減が生じる可能性があります。また、座長・助言者も変更になる場合がございますのでこの点のみあらかじめご了承ください。
※ 会場の定員に達し次第、「第2希望」の分科会に参加いただくとになりますので、申し込みは早めにお願いたします。

● 分科会演題募集!

昨年の第10回職員研究交流集会は東京で開催され、約488名もの参加者が大いに学び、交流を深めました。2日目に行われた分科会では、各現場のテーマにあわせて23の分散会が開かれ、全国から138本もの実践報告が寄せられました。

日々一人生懸命、高齢者に寄り添いながら、ゆたかな援助実践を積まれている全国の皆さん、日ごろの地道な実践を東京に持ち寄り、ともに学び、ともに育ちませんか?ぜひ、分科会一覧表(P6~8)をご参照のうえ、発表をご検討ください。

発表いただける方は、「演題募集エントリー」用紙(P10)に必要事項をご記入の上、8月31日(水)までに老福連事務局へFAXをお送りください。

● 研究・実践報告の原稿提出について

当日配布の資料集に掲載する原稿を下記のとおりご提出いただくようお願い申し上げます。

● 発表原稿様式

【原稿作成時】

- ソフトはWORDを使用(2007以降のソフトで作成した場合は「2003形式で保存」を選択すること)
- 用紙サイズA4 / 余白: 上下・左右とも20ミリ / 横書き / 1行45字・1枚45行 / (概ね2~4枚程度)
- 本文の文字: MS明朝 / フォントサイズは10.5
- 原稿本文にはタイトルを明記: 下記例示のようにオートシェイプをつかって□で囲む。<タイトルの文字>はMSゴシック / フォントサイズは、タイトル12、サブタイトルを付す場合はフォントサイズ9、その他は10.5

<タイトル> 例

タイトル ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ (フォントサイズ12) ー サブタイトル ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ー (フォントサイズ9) 都道府県名 所属の施設種別名 施設名 職名 氏名 (都道府県名以下 フォントサイズ10.5)
--

- 章立てをする場合には、章に1, 2, 3の数字、節に1), 2), 3)のように片)の数字、項に①②③の囲いのある数字を用い、本文との違いを明確にするため、文字はMSゴシックとする
- WORDファイル名: 【〔分科会No〕〔県名〕〔施設名〕〔氏名〕】 (例) A-2 山形_ずんだホーム_天童花子
- 【原稿送信時】
- 下記「原稿提出先」の宛先を参照し、EメールにWORDファイルを添付して送信してください。その際、件名にはWORDファイル名同様、【〔分科会No〕〔県名〕〔施設名〕〔氏名〕】を明記してください
- 発表原稿に写真等を添付する場合、容量が大きいデータは別途記憶媒体に保存の上、郵送で送付ください
- 【その他】
- 発表方法は資料集に掲載されたレジュメ等に基づいてお願いします
- 発表にあたって、利用者等の個人情報の取り扱いについては、事業所の個人情報保護規定に従い、適正な対応をお願いいたします
- 研究交流集會に参加できない方々とも実践交流を図る主旨で、研究・実践報告(発表)された内容を情報交流誌「ぼとぼら」の特集記事として取り上げることもございますのでご承知おきください

● 発表時間

- 1演題につき10分~20分程度 (各分科会の演題数によって異なるためあくまで目安)

● 原稿提出締切

- 9月15日(木) 必着

● 原稿提出先

- EメールにてWORDファイルを添付の上、9月15日(木)までに下記へお送りください
 メールアドレス 11bunkakai@gmail.com 白十字ホーム (担当:柿沼)

● お知らせ

- 例年、分科会での演題発表には、パワーポイントの使用を希望に応じて受付ておりましたが、今年は一時的に現地実行委員会での体制・準備等が整わない関係上、パワーポイントの使用(パソコン等機材の当日持込含む)については、まことに勝手ながらお断りをさせていただきます。事情を鑑みて、どうかご了承ください。

● 分科会 演題発表のエントリー用紙

● 発表エントリー

- 共同研究(発表)をおこなう場合は、代表者のみ一名を下記<発表者名>に記入の上、<発表内容>に共同研究と明記してください。共同研究者の氏名記載は、発表原稿本文へお願いいたします。なお、集会当日に共同研究者とともに参加・発表する際は、参加申込用紙の備考欄にその旨記載してください。
- 希望分科会を記載する際は、分散会番号も忘れずにご記入ください。(例:A-2・A-4やG-1・G-3など)
- エントリー受付後、分科会によって演題数の大幅な差異が生じた場合は、実行委員会で演題数の調整をおこないます。希望する分科会から別の分科会へ移っていただくこともございますのであらかじめご了承ください。

施設名		施設住所	〒
施設種別		TEL	
		FAX	
発表者名		職種	
第(—)	演題		
希望分科会 (分散会番号も忘れず)			
発表内容 (簡潔に)			

● 提出期限

- 8月31日(水) 必着

● 提出先

- FAXにて本用紙を老福連事務局までお送りください(表紙不要)
FAX番号 075-494-1135

● 問い合わせ先

- 現地実行委員会事務局 特別養護老人ホームとかみ共生苑 (担当:高梨)
TEL 023-646-5050 FAX 023-646-5051 E-mail tokami@themis.ocn.ne.jp